



コミュニティー



コーポラティブ

COCO-Community地域社会との関わり、Cooperative共同して生活してゆく、の意味

2016年3月

発行所*COCO湘南

〒252-0804 藤沢市湘南台7-32-2

Tel:0466-46-4976

Fax:0466-42-5767

発行者*西條節子



グループリビングの課題：新聞のインタビューに答えて



慶應義塾大学
総合政策学部教授

大江守之氏

3月9日の朝日新聞の埼玉版に、私のインタビュー記事が掲載されました。これは、さいたま総局の記者の方が「えんの森」に着目して5回の連載記事にまとめられた最後の回に、併せて掲載されたものです。高齢者の住まいに关心を持つ一般の方々を意識して答えました。

団塊の世代が75歳以上になる2025年を控え、高齢者の住まいはどうあるべきか。グループリビングを研究している慶應義塾大学総合政策学部の大江守之教授（64）に聞いた。

——これまでの高齢者住宅とグループリビングの違いは。

「制度に基づく高齢者住宅や施設はケアを受けるための共同住宅です。グループリビングは、一人暮らしの不安を除き、楽しい食事の時間を持つなどの生活の基盤を整えた上で、自分らしく暮らすことを目指す共同居住です。有料老人ホームなどの入居者の話を聞くと、『自由がない』という声を耳にします。安心の確保を運営者に委ねてしまうシステム自体の限界と言えます」

「グループリビングは自ら暮らしをつくる楽しみと自由があり、時には苦労もある小規模な居住形式です。居住者同士がどのような暮らしをつくりたいかを話し合い、運営者が尊重して柔軟な運営を行うことが基本です。また、居住者が地域で暮らす一市民になれるように環境づくりも行われています」

——グループリビングのような住まいは広がっているのでしょうか。

「財団法人JKAの補助を受け、全国に16のグループリビングができました。一方、介護保険制度によって多くの様々なタイプの共同居住ができましたが、逆に制度にのらない取り組みの位置づけを難しくしている側面があります。グループリビングのような住まい方を求めるニーズは確実にあると思います」

——今後の課題は。

「居住者の加齢に伴ってケアが必要になります。ただ、これに対応するサービスを特別に用意するのではなく、地域に向けて行われているサービスを地域に暮らす一人として受ける形を作り、『グループリビングで暮らすことは地域で暮らすこと』だという理解を深めていくことが必要です」

「高齢期の住まいを考える上で、暮らしが施設や住宅内で完結するのではなく、地域に開かれているかどうかがポイントです」

「介護保険制度によって地域に根付いた事業者が育ってきました。そうした事業者がサービス付き高齢者向け住宅の制度を利用しながら、グループリビングの運営に取り組むようになれば、ニーズを受け止めることができ、地域包括ケアシステムを実現する一つの要素になると思います」

臨時総会を開催しました

3月26日（土）にCOCO湘南台アトリエにて臨時総会を開催しました。議案は、COCOありまの閉鎖についてでした。

COCOありまは2012年度から定員割れが続き、2015年度には5人になってしましました。その間法人として、現地での見学会の開催やチラシの配布など、努力して参りました。しかし定員割れは継続し、このままでは法人自体の存立にも大きな影響が及ぶおそれもあると判断し、「ありま対策チーム」を設置し、解決策を検討しました。その結果、COCOありまの運営から撤退することを決断いたしました。撤退した後もCOCOありまの建物が社会的に活用されることを目標に借主を探したところ、幸いにも地元で障害者福祉事業を行っている社会福祉法人星谷会が障害者グループホームとして借りて下さることになりました。

COCOありまの居住者5人の皆様には、大変ご迷惑をかけましたが、法人の運営状況をご説明し、皆様からご承諾をいただきました。5人の居住者は、COCOたかくらへ2人、COCO湘南台へ2人、サービス付き高齢者向け住宅へ1人が転居されました。2月末から3月の半ばまでに引っ越しを終え、新生活を始めていらっしゃいます。



新しい仲間との暮らし

COCO湘南台、COCOたかくらには、COCOありまから転居された方以外に、新しい入居者お一人と少し前にCOCO湘南台からCOCOたかくらに転居された方もいらっしゃいます。居住者の皆さんが新しい仲間との暮らしをどのように感じているかについて伺いました。

COCO湘南台



ありまにいた時と同じように畠仕事とピアノの練習をしています。ピアノを弾くことで手が動くようになりました。リハビリになっています。

生活は、まあまあだ。もっと話合うことが大切だ。

毎日9時から30分ピアノの練習の音が聞こえてきます。童謡なので、いつのまにか一緒に歌を口ずさんでいます。

練習のピアノの音に癒されています。

同じ年の居住者が入ってきたので、嬉しい。



人数が増えて嬉しい！
毎日楽しく過ごせるよう心がけています。

COCOたかくら



新しい環境になりましたが、
だいぶ慣れてきました。
食事が美味しく、最高です。
おかずもたっぷりあって、嬉しいです。

ミーティングの時にたお団子や食事がとっても美味しいです。
以前住んでいたときとスイッチの位置が反対だったりして
戸惑いもありますが、話を聞いてくれる人もでき楽しんで過ごしています。



だいぶ慣れてきました。車いすで行動が限られているので、
畠や花を部屋から見ることができないのが少々残念です。

ありまの方を迎ましたが、お互いに自然に
交わされているように思います。人数が増えてとても嬉しいです。

金魚に慰められます。植えたばかりの柿の木が
今年実をつけるのを楽しみにしています。

人数が増えて
快適に過ごせています。

人数が少ないなりの生活に慣れていたので、
人が増えることでどうなのが不安だったが、
人数が増えるのも良いものだと思った。

人数が増え、ありがたいし、とても嬉しい。

節子の部屋

3月3日 お節句



COCO湘南台のリビングに108歳になったお内裏様を美しく飾りました。

「へえー108歳」、「珍しい」、「まあ一きれいね」の声。

後ろから「これ、早く片付けるようにしないと、嫁に行かれな
いわよ！」と言われました。

「ウハハハ…。そうなの！ 私87歳まで独身なのはそのせい
ねー」と大笑い。

3月13日に大切に、大切に、箱の中に納めました。



NPO法人COCO湘南の概要

活動の目的 ▶ COCO湘南は、高齢者のためのバリアフリー・グループリビングや高齢者地域活動センターの運営とその関連事業を通じて、高齢者の健康的で文化的な生活を支援し、明るい地域社会づくりに貢献することを目的とします。

活動の種類 ▶ COCO湘南は、目的を達成するために、①福祉の増進を図る活動 ②社会教育の推進を図る活動 ③まちづくりの推進を図る活動等を行います。

事業の種類 ▶ COCO湘南は、①高齢者バリアフリー・グループリビングを開設し、運営する事業 ②高齢者への家事援助、介助並びに介護サービスの事業 ③高齢者のための生涯学習、リクリエーションの事業 ④高齢者の地域連帯を促進し、自立と共生を支援する事業を行います。

事務局 ▶ 住所:藤沢市湘南台 7-32-2 中野 満 電話:0466-46-4976 Fax:0466-42-5767
メール:coco-shonan@jcom.home.ne.jp HPアドレス:<http://www.coco-shonan.jp/>

*定例見学会は第一日曜日から第一土曜日に変更になりました。

みんなの輪 簡単料理

石井美喜子

湘南台みんなの輪のスタッフ青木さん、土屋さんがお料理を教えて欲しいと家に来られたことが契機で簡単料理を教えています。私は藤沢市食生活改善推進団体（四ツ葉会）の会員ですが、月1回保健所に行きお料理を習いました。うまく教えられるか心配でしたが、皆さん長年お料理をしてこられたので手際が良く、10の方に教えておりましたが私も教える立場から教えていただく立場になることもあります。

皆様と和気あいあいで料理を作ります。教室は月1回ですが、来月はどういうお料理にしようか考えるのも楽しみです。

家の近くでボランティアができるという事、皆さんとコミュニケーションがとれ、とても良いことだと思っております。まさに藤沢型地域包括ケアの縁側事業だと思います。

これからもみんなの輪で私にできることは協力していきたいと思います。これからもよろしくお願ひいたします。



高齢者グループプリビング普及活動 2016年1月～3月

2月29日 C O C O湘南台に住宅情報サイト「s u u m o (スモ) ジャーナル」の方2名の取材があり、西條理事長、中野事務局長が対応しました。

3月1日 C O C O湘南台に神奈川県住宅管理課の方が2名見学にいらっしゃいました。西條理事長、中野事務局長が対応しました。

編集後記

ありまの方々がいらっしゃって、賑やかになりました。人生はまだまだ続きます。ゆっくりと急がずに、時にははしゃぎながら大人の共生を生きていきましょう。(Y.K)

編集者 * 西條節子
大江守之
熊澤淑子
竹内穎子
青木静恵
土井原奈津江